



## 桐生織塾

# 織物史ゆかりの地で 資料収蔵展示と体験工房

桐生織塾は、前塾長・武藤和夫氏が、染織に関する技術・知識・経験を仲間と共有し、互いに磨き合う場として創設し、工房推進都市構想を進める桐生市の創作工房第一号に認定、平成元年に開塾した。

現在は二代目の新井求美塾長に引き継がれ、工房としての機能を有しながら、織塾が保管している国内外の織機や染織関係の道具類をはじめ数千点に及ぶ染織関係資料を定期的に公開している。

桐生織塾は梅田町一丁目、金沢峠の入り口の「成愛社」ゆかりの地にある。成愛社は明治13年に設立された桐生で初めての会社組織による織物工場。当時、外国から輸入され大流行していた黒縹子織物に対抗して、国内産の絹綿交織による「観光縹子」を生産し、一方では輸出用羽二重を生産するなど、桐生織物近代史に大きな足跡を残している。桐生織塾はその創業者の一人、青木熊太郎氏の旧宅を使用している。

織塾の収蔵品としては、武藤和夫氏の銘仙コレクションや伊勢崎緋のサンプルおよび関連道具類、インドネシアをはじめとする世界の縞と緋のコレクションを中心に、世界的なテキスタイルデザイナー・新井淳一氏の中国少数民族染織品やアフリカの染織資料などのコレクションなどを収蔵している。

工房としては、手織り機数台を置き、機織り体験を行っており、ここで制作したショールや着尺、帯なども販売している。



- 住 所／桐生市梅田町 1-802
- 開 塾 日／毎週金曜日・土曜日  
(午前10時～午後4時)
- 電 話／0277-32-0366